

様

年 月 日

## ジェムザール／トポテシン療法

この治療では次の2種の薬を使用します。

ジェムザール（ジェムザール）：細胞の分裂を抑えて病気の細胞が増えるのを抑えます。

トポテシン（トポテシン注）：細胞のDNAに作用し効果を現します。

<投与スケジュール> . . . 3週間 1コース 今回 コース目

| <薬品名> <投与方法・時間>                        | <薬の作用>      | 1コース目  |       |   |       |       | 2コース目   |
|--|-------------|--|-------|---|-------|-------|---|
|  |             | 1日目  | . . . | 8日目   | . . . | . . . | 22日目  |
| デキサト注・グラセロン注<br><点滴 30分>               | アレルギー・嘔気の予防 |  | 休薬    |  | 休薬    | 休薬    |  |
| ジェムザール（ジェムザール）<br>生食100ml<br><点滴 30分>  | 化学療法剤       |  | 休薬    |  | 休薬    | 休薬    |  |
| トポテシン（トポテシン注）<br>生食500ml<br><点滴 1.5時間> | 化学療法剤       |  | 休薬    |  | 休薬    | 休薬    |  |

### <薬剤投与日の注意>

- ★ 点滴部位が痛くなったり、腫れたりした場合や点滴が落ちなくなった場合は、薬液が血管外へ漏れていることがありますので、すぐに申し出てください。
- ★ 投与開始後、アレルギー症状が現れることがあります。息苦しさや胸の痛み、脈の乱れ、顔の火照り、発汗異常、低血圧、かゆみ、発疹などの不快症状があればすぐに申し出てください。
- ★ 薬剤の投与は、血液検査やその他必要な検査を行いながら進めていきます。副作用の発現・合併症の有無によって治療の途中でも、薬剤の減量・変更や中止されることがあります。

<備考>

## <副作用>

| 副作用と症状                            | 発現時期、頻度     | 対策  | 備考 |
|-----------------------------------|-------------|---|----|
| 白血球減少<br>発熱<br>風邪様症状              | 1～2週で最低     | うがいや手洗い・休養を心がけて下さい。白血球を増やす薬や抗生物質を使うこともあります。         |    |
| 血小板減少<br>出血                       | 2週間前後       | けがや打撲、歯ぐきからの出血、鼻血などに気をつけて下さい。止血剤を使ったり、輸血をすることもあります。 |    |
| 貧血<br>倦怠感、息切れ                     | —           | 採血結果によっては、造血剤を使ったり、輸血をすることがあります。                    |    |
| アレルギー症状<br>顔がほてる、息苦しい<br>胸が苦しい、発疹 | 開始直後<br>～数日 | あらかじめ3種の予防薬を使いますが、症状があればすぐに申し出て下さい。                 |    |
| 吐き気・嘔吐                            | 比較的少ない      | 我慢せずに吐き気止めを使用してください。                                |    |
| 下痢・腹痛                             | 重度 3人に1人    | 水分摂取を心がけて下さい。下痢止めや整腸剤を使ったり、点滴をする。                   |    |
| 倦怠感                               | 3人に1人       |   |    |
| 脱毛                                | 2～3週間後に現れる。 | 治療が終了すれば徐々に回復します。気になる方は帽子やスカーフ・かつらなどをお使い下さい。        |    |
| 発熱                                | —           | 必要時解熱剤を使用してください。                                    |    |
| 間質性肺炎・肺線維症                        | 少ない         | 息苦しさ、空咳、発熱など、早期発見が大事。すぐに申し出て下さい。                    |    |
| その他：口内炎、便秘、肝障害、心機能障害、肺障害など        |             |   |    |

## <注意事項>

- ★ ここにあげた副作用は、代表的なものです。必ずしもこれらの症状が現れるとは限りません。もし副作用が現れても、早期に発見、対処すれば、治療の継続が可能です。過剰に心配せず、気になること、調子の悪いことがあれば、医師・薬剤師・看護師に申し出て下さい。